

## 平成 23 年度長野県生涯学習審議会 議事概要

日 時：平成 23 年 10 月 24 日（月）

午前 10 時～午後 4 時

場 所：青木村

文化会館・児童センター・青木小学校

○出席委員 白田直子委員、小島佐和子委員、塚田芳樹委員、土井進委員、  
中村雅代委員、本多得爾委員、松村純子委員

○欠席委員 内野安彦委員、白戸洋委員、 関ひとみ委員、水野龍二委員

### ○青木村の出席者

宮原毅村長

教育委員会 本田昌彦委員長、沓掛英明教育長、井古田嘉雄教育次長・公民館長  
小林利行さん、多田宇宏さん

総務課 上原博信さん

児童センター 高田玲子所長、塩澤真由美さん

青木小学校 中澤康匡校長、島田浩幸教頭、宮下正史5年1組担任、平林由美子5年2組担任

寺子屋ボランティア 小林規子さん、増田千春さん、金井文子さん、宮澤浩美さん、柳貴洋さん

### ○県の出席者

教育委員会 山口利幸教育長

東信教育事務所 小岩井彰生涯学習課長、佐々木哲也指導主事

南信教育事務所 竹中雅幸生涯学習課長

南信教育事務所飯田事務所 脇坂隆夫所長、清水英二指導主事

北信教育事務所 岡田哲夫生涯学習課長、柄澤俊彦指導主事

生涯学習推進センター 青樹令一所長、小林逸元専門主事

文化財・生涯学習課 駒村明美課長、北島隆英課長補佐兼生涯学習係長

浦野栄一主任指導主事、蟹澤友司指導主事

小松容指導主事、上原荘司主査

1 教育長あいさつ 《文化会館》

2 青木村村長ごあいさつ 【青木村村長 宮原毅さん】

3 実践発表

(1) 取り組みの内容 …【青木村 総務課 上原博信さん（前教育委員会）】

(2) 立ち上げに至る経過…【青木村 前教育長 小岩井彰さん (現東信教事生涯学習課長)】

(3) 現在の青木村の様子…【青木村 教育長 沓掛英明さん】

(4) 発表についての質問等

【土井進会長】

ここで質問項目だけを上げていただいて、午後に質疑応答をしたいと思います。

【臼田直子委員】

感動して聞かせて頂きました。村を挙げて、地域住民の皆さん、先生方等、保育園、小学校、中学校と一体化した取り組みとお話をお聞きしました。そこで働く現場の先生方がこういう取り組みをするという時にどんな反応であったかお聞かせ願えればと思います。

【小島佐和子委員】

うらやましい限りのことで、私も青木村に引っ越そうかなあと思ったくらいです。ただ子どもがいないので残念だなあと思っています。皆さんが一生懸命やっていてすばらしいなあと思います。村民の皆さんがどんな形で参加されているのかということをお聞きしたいと思います

【塚田芳樹委員】

大変すばらしい取り組みで、私も感動してお話を聞かせて頂きました。質問ですが、先ほどの話で信大の人文学部で評価をしたということですが、小岩井先生が言われたように「人との関わりをつくる、大きな希望を持って生きる、自ら学ぶ力を持つ」そういうことが出されましたけれども、評価として具体的にどんな項目で評価しているのかということをお聞きしたい。

【松村純子委員】

答申は平成21年に出したので、その随分前の平成16年からこうした事業がされているということですばらしいと思います。私も評価が気になったところです。社会教育はなかなか評価が難しいです。せっかく8年間も実施されてきているので継続評価や単年度評価をお聞きしたいと思います。

【本多得爾委員】

先ほどからお聞きして、青木村の前教育長さん、今の教育長さんそして、教育委員会の皆さん、資質が高いなあと感じました。そして皆さんがやる気を持っていらっしゃる。また、非常に的確なことを感じ取って、子ども達をこういうふう育てていかなければいけないということが明確になされていると感じました。明治時代に外国の人たちが日本に来て「日本人は非常にすばらしい、みんな助け合っていて、決して豊かではないけれど、そこに貧しさはない」ということに感心したと言われていています。しかし、戦後

の教育の中で個人主義が強調され、その結果、個人をばらばらにして、家族をばらばらにして、そうしたことが進んだ結果、今では地域の共同体が崩れてきてしまっているという捉え方を私もしています。今の子ども達が元気をなくしたり、あるいは色々な今の症状を見たら、何とかこの状態を変えて子ども達を育てていかななくてはならないと私自身も日頃から強く感じていました。今日のお話で、そうしたことがここに集約されているような感じがしました。特に一番最後の「人と人との繋がる力」人間力みたいなものが学力をも向上させていくところに結びついていくような取り組み、そして、いずれ成人して大きな力になっていくということを今日は感動して聞かせていただきました。

#### 【中村雅代委員】

私も保育士を務め、児童センターの構成員も経験をしたので、大変参考になりましたし、素晴らしい実践だと思いました。私たちも異年齢交流といって、掃除グループを異年齢で構成してみたりしましたが、青木村では押しつけでなく子どもが何事にも参加する、子どもが主体というところが大きいのではないかと思います。そして、これまで、家庭の高齢者とか地域の方々に生活の経験で教えてもらうというのは、私の時代では日常的で当たり前だったのですが、今の時代ではあえて場をつくり、事業として提供する、ボランティアとして人材を活用するということが必要で、それは協力がなければできないし、村民の方々の理解がなければできないことだと思います。子ども達にとっては、参加することが初めの一步であり、それが継続して参加していくと楽しみになり期待感につながる。お互い学んで潤いになり、豊かになる。先ほどの中学で一緒に学びたいという高齢者がその日は生き生きと化粧をしてやってくるというお話のように、期待感が大きなものをつくってくれる、子どもが経験したものが大きいということをひしひしと感じました。

やはり青木村では資質の向上というのがとても素晴らしいなあと思いました。保育士とか厚生委員とか教員の方々とか、その資質がものをいうのではないかと感じます。私は労働団体の立場ですので、児童センター、保育園とか雇用では非正規の方が多いのですが、雇用において自分の意識を高揚させるという意味で、その辺を村としてのどのように考え、投資しているのかということをお聞きしたいと思います。さきほど4千5百万も教育に投資するというのがありました。私の須坂市ではなかなか理解が得られないために、子どもや保育園に税金を掛けるということが、予算の組み立てにおいて、大変なのでその辺もお聞かせ願えればと思います。

#### 【土井進会長】

午後の時間の中で質問に対する内容を扱っていきたいと思います。

- 4 視 察 ① 「児童センターの活動」 《児童センター》  
(1) 実践発表 … 【青木村児童センター所長 高田 玲子さん】  
(2) 質疑

**【中村雅代委員】**

私もセンターに勤めていましたので、先生方のご苦勞はすごいなあと思います。登録ではないので保護者会との関わり、保護者会というものがあるのかも含めてどのようになっているのか。健康管理の面で小学校との連携について、子どもはよく感染症などをきつく言われていましたので、そのあたりの学校との連携の取り方はどうか。更にはおやつなどはどのようになっているのか、教えて下さい。

**【高田玲子児童センター所長】**

登録については青木村児童センターは1年目2年目までは登録ということでやっていたけれども、それ以降青木村の子どもであれば全員来られる、全員を登録しているような形に変わりました。

学校の先生との連携ですが、この近さなので学校の先生方と常に色々な情報を交換し合っています。学校に行き行って借りてくるものもありますし、印刷なども学校でするので、そんな時も先生方とお話しができますし、支援会議でも小学校に出かけていきますし、連携はとても良く取れていると思います。

感染症のことですが、インフルエンザなどについては学校の先生方から必ず連絡して下さいます。その辺もしっかり連携が取れていると思います。

おやつですが、1年目からずっとおやつを作っていました。それは児童センターができる前に、「ひまわりクラブ」という学童保育所がありました。私もその指導員をしていました。その想いをそのまま児童センターに持ってきたので、おやつを出してました。青木村全員の子どもが登録している形ですので、おやつを出す児童をどうやって把握するか色々考えて、保護者に対しておやつ登録といって、子どもが希望があったらおやつを食べても良いという登録をしてもらい、登録した子どもで、おやつを食べたい子どもが学校の休み時間におやつ申込書に名前を書く、それを午前中に職員が紙をもらいに行きます。そして、他の職員3人でおやつ当番を決めてどんどん回していきます。その当番の先生に「今日は20人だよ。30人だよ」と連絡を入れて、連絡を受けた先生が午後出勤してくる時におやつの買い物をしてくる。そして、一回100円としてエクセルに入力していく。そこで全員違う金額の請求を出して、村の登録いただいた口座より引き落としというやり方を5年くらいやっていました。子ども達も楽しみにしていましたし、私たちもおやつをつくって食べさせる子どもにはすごく愛情が湧きました。ところが村にあった大きなスーパーが閉店してしまい、買い物をするところがなくなってしまいました。そんなこともあっておやつを続けていくことが不可能になってしまい、保護者の方にアンケートを採ったところ、あれば食べさせたいけれども、なくてもいいと言うことで、おやつはなくなりました。

**【土井進会長】**

安心安全ということが一番大切かと思います。部屋の中でなく、子どもを外に出した時の方が怪我が減ってきたということですが、この原因がどの辺にあるのか。また、川に出した時に三人のセンターの職員がどう関わっているのか、そこに行ったらっしやる

のかどうか、教えて下さい。

**【高田玲子児童センター所長】**

救急車を呼んだことも何回かありました。保護者の方の希望として、とにかく安全に怪我のないよう帰してくれと強く言われました。また、児童センターの中で宿題を終わらせてから帰してほしいということも言われました。それを抱えていますと、やはりどんどん願いと逆の方向に行ってしまいました。子ども達は力が余って別の方に行って、ぶら下がったり上ったりします。もっともっと外で発散すればいいのに、暑い時はクーラーをかけてこの中にいました。寒い時には暖房をかけて、この中にいました。ロッカーに上る、そこらにぶら下がる、友達に跳び蹴りをしてみたり、とにかく力が余るんです。ロッカーから飛び降りた時なんか、重い怪我して命に関わるのではと心配したこともありました。それが外に出したところ、子どもの気持ちを満たしてくれるものがあるのです。運動量も増えます。今は村で川に階段を作っていただきましたが、その前は水曜クラブで講師をやっていた片山さんというオートキャンプ場を経営されている方が、木を切り出して梯子を作ってくれました。最初、子どもはその梯子を下りられなかったのです。「落ちる、落ちる。俺が行ってからだ」となかなか下りられなかったんですが、外に出すようになって、毎日「揺らすな、揺らすな」といって下りているうちに、どんどん運動能力が高まって行って、両手でバケツを持ってバランスを取りながら、あんなに怖がっていた梯子を一気に駆け下りて、川に行くことができるようになりました。そういうことが怪我の減少に繋がっているんだと思います。私たちも苦情を言われながら、そこまで出すのは勇気のいることだったのですけれど、出してみたらびっくりです。子ども達がどんどん成長して、この中ではあんなに怒られて「ばか」だの「くそ」だのと言っていた子どもが、ものすごくいい顔をしてあれだけの言葉はどこに行ったのと思うくらい消えてなくなりました。

子ども達を外に出す時の職員の対応ですが、長期休業中はもう1人増員していますが、普段は私たち3人で対応しています。センターに1人残ります。そして校庭に1人、それから川に1人いきます。携帯電話を持ちながら3人で、「〇〇君がちょっと足を石で切ったので、今から行くからお願い」といったように連携し合っています。安全管理に問題がないようにと考えれば、もっと職員がいた方がいいのですが、3人の職員で何とか切り盛りしています。子ども達の遊びを見ていると、大人に管理されないところに本当の遊びがあるのかなあとも思っています。いつもいつも大人の目があって大人の目を意識して遊ぶよりも、ちょっと大人が遠くにいて、子ども達が遊ぶのほう子どもらしさが出ていいのかなあとも思っています。

**【松村純子委員】**

0歳から18歳までが対象ということですが、幼稚園・保育園にあがる前の子ども達の利用状況はどのようになっていますか。また、幼稚園・保育園と学校のスムーズな接続が課題とされています。スムーズな接続になるように児童センター等が役割を果たせるといいと思うのですが、そのあたりはどうでしょうか。青木村では児童館の所管が

福祉課から教育委員会になったことで大きく変わったと話がありましたが、国では文科省、厚労省に関する事、村では教育委員会と福祉課となると思いますが、どんなことが変わったのか教えて下さい。

#### 【高田玲子児童センター所長】

午前中は小学校の子ども達は学校へ行きますので、その間は小さい子ども達に開放しています。まだ保育園や小学校に行っていない親子連れが遊びにやってきます。青木村の方もいますし、上田市や坂城やもっと遠くから遊びに来る方もいます。外遊びができる期間は、1日3～5組くらいです。冬になって雪が降ったりして、外で遊びができなくなると、この中は遊べないくらいになり、20組という日もあります。まちまちですが年間でおおよそ800組くらいの利用があります。1日平均すると5～6組というところでしょうか。少ない日もあれば、どうして今日はこんなに来たのかなあという日もあります。

中学生・高校生・大学生までここにやってきます。センターを開館してから8年目になるので、一番初めにセンターを出た子ども達が高校生や大学生になります。「大学受かりました」とか報告に必ずやってくる。「お疲れさん、毎日がんばってるね」なんて言ってオロナミンCなんか持ってきてくれます。本当に涙が出てしまって「あなた達、こんなことするようになったの」なんて言って、手土産なんて持ってきたりして「がんばれよ」なんて言ってくれたりします。「これから静岡の大学に決まって行きます」という前日に来てくれた子もいます。大きくなったなあと感じると共に、そんなところが児童センターのいいところかと思っています。

中学生は部活があって忙しいのですが、休みというとき必ず階段を下りてきて、センターにいた頃と同じように遊んでくれます。センターの子ども達は大きいお兄ちゃん達が来るのがみんなとてもうれしくて、負ぶさったり、乗っかったり、「肩車をしろ」なんて叫んだりするこもいます。それに対して「分かった、分かった」などうれしそうに言ってやってくれています。

児童センターが教育委員会の管轄になったのは、大きな変わりようでした。住民福祉課の時は、このセンターと校庭の一部が保険の範囲に入っていました。けれど、教育委員会になってからは、青木村全体に保険を掛けてくれたので、とても活動がスムーズになりました。子どもの遊ぶ範囲が広がりました。中でも一番は遊びです、安全面を保証していただいたので、いろんな遊びができるようになりました。それによって保護者も変わりました。今まで川遊びなどをしても、「川に行くんじゃない」と親から止められていた子ども達もいました。「川に近づくんじゃない。たき火なんかするんじゃない」と言われてきたのです。それでも子ども達は遊んでしまいます。お迎えに来た時に「あれほど行くなと言ったのに、どうして川に入るの」と怒られるのですが、そのうちに毎日子ども達が川に入る。いい顔をして、また明日も児童センターに行って川に入る。そうするとよく遊んでいるので、家に帰ってからゲームをする元気は残っていないのです、体力的にも。そうするとあんなに「ゲームをやめなさい」と言われても止めなかった子ども達が、「本当に楽しかった。くたびれた」と言って、ぱたっ

とゲームをしないで寝てしまう。そういう子ども達の毎日が保護者を変えていってくれました。「児童センターの川遊びを楽しみにしていてくれるから、よろしくお願ひします。毎日ありがとうございます」そういうふうクレームを受けた保護者から感謝の言葉をいただけるようになりました。それは本当に子ども達を変えてきてくれたのだと思います。

#### 【山口利幸教育長】

スライドを見ながら、あの遊び場の中に私も入っていきたいなあと感じました。中でも感心したのは孤立している子どもが1人もいないことです。何らかの輪の中に入っていて、集団で元気よく遊んでいる。子どもを囲っている段階から、子どもに思う存分思いつきり遊ばせて、徹底的に子どものエネルギーを引き出してやるという、そして、生活にメリハリをつけていきたいという姿勢ですね。何とかこの取り組みをいろんなところへ広げていきたいなあと感じました。そんな時また力を貸して下さい。本日はありがとうございました。

#### 4 視 察 ② 「授業参観」 《青木小学校》

(1) 算数 5年1組 5年2組 [1クラスはタブレットPC使用]

#### 5 視 察 ③ 「あおきっこ寺子屋」 《青木小図書館》

○放課後図書館での児童の学習等を地域の方がみる

#### 6 意見交換 《青木小ミーティングルーム》

- (1) 青木村の取り組みについて
- (2) 長野県の生涯学習の振興のあり方について

#### 【土井進会長】

午前中に出された質問・意見について、一括して沓掛教育長さんからご説明いただいて、改めて質問が出ましたら更に深めていきたいと思ひます。

#### 【沓掛英明教育長】

保小中一貫教育について、先生方の感じ方はどうかという質問についてですが、一言で言ひますと、積極的に受け入れていただひていると感じています。まず、保育園から小学校への連携を大切にしなければいけないと先生達も感じています。三つの委員会にすべての先生達が参加して、顔見知りになりますし、距離も近いので一村一校の良さを生かした取り組みだと感じています。保育園から小学校の低学年への連携、小学校から中学校への連携が大きなポイントだと思ひます。たとえば保育園で走る活動を大事にしよう挑戦したことに対して、小学校ではそれを受けて100日マラソンを実施する。さらに今年度はあおきっこ5箇条の制定の計画があります。皆でアンケートを取って知恵を絞って考えています。良い方向でありがたいと思ひていますので、先生方の連携し

よとする気持ちを損なわないようにしていきたいと思っています。

村民の方の参加意識はどうかということですが、これは次の質問の評価と関わってくるところがあると思います。人文学部の評価というのは報告書の93ページから社会力の評価について書かれています。保護者にアンケートを取ったり、子どもにアンケートを取って見えてきたことは、経験したことがある子どもや保護者は、事業に対して高い評価をしているということが言えると思います。具体的には、児童センターの活動に対して、今アンケートを取ったら保護者は大賛成するだろうと思います。そのように経験していることについては高い評価を示している、ところが知らないとか経験していないこと、参加していないことについては評価が低いと思います。経験したよく知っているということが大きい。更に具体的に見ていきますと、社会力育成事業の参加の有無と将来の関与という項目がありますが、将来自分もこういう社会力育成事業に関わってみたいかという質問に対して、参加した経験のある子ども達は力になりたいと思う子どもが57.89%です、力になりたいと思わないが42.10%となります。ところが参加経験がないお子さんは力になりたいと思う子どもが34.55%、力になりたいと思わないが65%となります。参加しない子どもは将来それに関わりたくないと思うということです。いかに参加するお子さん保護者を増やしていくかが大きな課題であろうかと思えます。村民の方の意識は、本当に積極的に関わって下さる方と、なかなかその社会力ということに対して、どう関わっていいか分からないという方がいると思います。そうした方達の掘り起こしをしていくことが課題と言えます。

次に資質の向上です。これが重要なことで、今私たち教育委員会がやろうとしているのが、5つの視点です。5つの視点には人と人が繋がる活動の充実が入っています、幼保小の連携も入っています、学力向上も入っています、子どもと向き合う時間の確保ということも入っています。付け加えますと、今寺子屋を見ていただきましたが、あれはボランティアの方に行っていていただいています、本来ボランティアの方がやるべきなのか、学校の先生がしっかり見るべきなのかというところは議論のあるところかと思えます。きちっと向かい合う時間が確保できれば、学校の先生達が子ども達としっかり向き合うということも考えられます。そういうところも、先生方の意識や力を教育委員会も一緒になって育てていくことが重要ではないかと思っています。

#### 【土井進会長】

今日の視察を通して、質問あるいは社会教育・生涯学習という視点から意見を出し合っ問題点を深めていきたいと思えます。

#### 【中村雅代委員】

児童センターの活動を見させていただきましたが、やはり私にも関わりのある職場でしたので、ご苦労がしみじみと伝わってきました。須坂市も学童保育については40年近い歴史があり、いち早く児童センターを発足させて4センターがあります。学童保育とか児童クラブとかも、学校とかに置かれていますのできちっと評価をしていかなければと思えます。やはり登録制なので、今日のような登録でない形態だと大変なことがあ

るんじゃないかと思ったのですが、やはりこの幼保小あるいは保小中一貫というところがきちっとしているので、うまくいっていると感じました。私たちは保育園で、細やかな保育をしていくには、今では色々なお子さんがいらっしゃるので、人数を昔の50年～60年の厚生労働省基準での年少20人ということでは、とてもきめ細やかということはできないのです。しかし、町と交渉したりすると「それは小学校に行つての30人40人の集団行動に慣れておこななくては…」という答えに対して、私たちはそうではないのと言いながら、ようやく15人になってきた経過や戦いがあります。そういうものが青木では村を挙げていう考えがあり、子ども主体としてやっています。そうした取り組みが、子どもに返ってくるのが大きいし、村に戻ってきて今度は自分のお子さんをここで育てていきたいんだという、還元につながっていくのではと思います。保育されたり保育を受けた人が自分がそういう立場に立って戻ってくるという財産をつくっているんだなあと感じました。

授業も見せていただきました。私はやはりパソコンとか苦手なせいか、なかなかついていけないなあと思って、人と関わって進めているクラスに入るとほっとしました。けれど、人の力には限界がありますし、パソコンの効率を考えたり、見逃さないということもあり、良い点悪い点があるのですが、それぞれの良い点を生かしていけば良いと思いました。とても勉強になりました。

#### 【本多得爾委員】

青木村のすばらしさというものを感じさせていただきました。青木村はかなり豊かな村なんですよ。三方山に囲まれている、上田に絶対一緒にならない。村ですから、保育園、小学校、中学校が全部が1つずつですよ。そういうものを生かして展開していくことは、非常に利点があると思います。それから自然が豊かですから自然との関わりがある。保小中と一貫したものを作りやすい。青木村の本当にすばらしさを感じ、感動の中で終わらせていただきました。

#### 【松村純子委員】

今日は遠くから来て良かったと感じています。答申の目指す姿の「学びの循環」の様に、前回参加した子がまた「寺子屋」に参加したり、中学生・高校生・大学生が「寺子屋」を卒業してからも顔を出したり、ボランティアという形での参加も、事業の成果でしょう。またご高齢の方が水曜クラブという形で参加していますが、学びたい高齢者の方が中学生と共に一緒に学ぶ、これもまた学びの循環ではないかと思いました。すでに16年から実践されているということなのですが、すばらしい実践だと思いました。

いくつかお聞きしたいことがあります。生涯学習の観点に立つと、学校教育・家庭教育・地域教育の連携が鍵となると思います。その中で最近見えなくなっているのが、家庭教育です。家庭の教育力が乏しくなっているのが、地域の教育力で補っていかなくてはいけないと言われているのですが、学校・家庭・地域の3つの枠で生涯学習を考える時、家庭の教育力向上についてお話しいただければと思います。

青木村は非常に財政が豊かなんだなあと感じました。今日も申し訳ないと思いながら

もどこからこの予算が捻出できるのか知りたくて、何回も有償ですか、無償ですかとお聞きしました。青木村の取り組みの種が少しでも全県に広がっていく事が重要です。しかし、この財政力が他の市町村さんにどこまで反映できるかという疑問もわいてしまいます。取り組みのポイントが、財政力なのか、村長さんのお力なのか、教育長さんのお力なのか、ちょっと分からないのですが、どこの市町村さんでもこの取り組みの予算化ができるかと思っています。それに伴って社会力育成事業の重点にある、長期の子ども達の体験活動は絶対重要だと思っています。それには他の市町村さんが、データを元に予算を獲得していくことが必要かと思っていますので、できるだけ分かり易い数値で示していただくことが他の市町村さんにも広がっていくことになるのではと思います。せっかく村という地方自治体で実施しているのですから他の市町村さんへも広がっていくことが素晴らしいことかと思っています。そうしたことも含め、こうした調査に是非とも私も加わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。

#### 【土井進会長】

大切なところですので、お答えいただきながら進めたいと思います。家庭教育との連携はどうか。財政はどうかということですが、教育長さんお願いします。

#### 【沓掛英明教育長】

逆にご指摘をいただいたと感じています。村の教育委員会として、こどもたちに何を育てるかということはずっと発信してきたように思います。それを家庭の保護者の皆さんに分かってもらいたい。常に何をやってくれるかという立場から、自分は何ができるのかという立場に切り替えてもらいたいと思うのが、私たちの願いです。それについては、これだけの外遊びの充実やこれからやろうとしていることを発信していき、本当に理解していただく活動を通して気持ちを耕していく必要があると思います。家庭を巻き込んでというのは大事な課題を頂いた、これから頑張っていきたいと思います。

財政のことは、私からはよく分からないところです。例えば先ほども 4500 万と言っていました。実はあれは「絆プロジェクト」といって 100 分の 100 の補助なのです。たまたまコンパクトな青木村なので、すぐ手を挙げて設置ができた。小回りがきくという良さがありますので、できるだけそれを生かしていこうと思っています。村長さんは銀行マンだった方なので大変財政にはお詳しくて、それで青木村は絶対大丈夫と自信を持っています。更に言うと、教育には本当にお金を掛けて下さいます。逆に甘えすぎたはいけないなあと思うくらいです。例えば「絆プロジェクト」は 4500 万ですが、授業の時にティーム・ティーチングで入っていた女性の方は村費で入っています。あの方がコンピューターのプロです。ソフトを使ったり先生方に教え方を教えたりしてくれています。それを 5 年位はお願いしたいと思っています。それが許されるというのは青木村の良さです。そうすると、評価を上げないと、厳しい評価になって返ってくると私たちも捉えて、頑張らなくてはいけないと感じています。

#### 【土井進会長】

評価に関わって数値化した評価を示すことが、行政的に必要ではないかとおっしゃったのですが、人文学部さんの評価はどういうきっかけで本村に入られて、どういう観点からされているのでしょうか。

**【本田昌彦委員長】**

評価については、社会力という概念は生きる力の大本だと思います。しかし、これを直接数式的に評価把握するという事は非常に困難です。信大の人文学部とはパートナー型の提携という形で、人文学部の学生を受け入れる、逆に私どもが実態調査に協力するという事で、相互に補完しあうという契約を4年前に結びました。村山教授を中心として、青木村に一週間程入って、村の実態調査として一昨年と昨年2回にわたって調査をしていただきました。その1つとして社会力育成事業についても、主にヒアリングとアンケートによる調査をしていただきました。

ですから、人文学部は9月の初旬に、毎年学生20数名が教育実習のプレという形で、2単位もらえるそうですが、学校で受け入れています。その関係で青木村の取り組み、観光とか全般にわたって調査し、冊子として一昨年と昨年まとめていただきました。人文学部とはそういったつながりでやっています。青木村の教育委員会の上原さんもたまたま人文学部の出身ということで、その関係で提携して、青木村の将来とか観光とか教育その他、調査していただき、アドバイスをいただいています。

実際には取り組み前と後でのデータがありません。申し訳ないのですが、体力とかそういうものについて、取り組む前にどれだけであって、取り組んだ後どれだけ伸びたとか伸びないという客観的なデータはないのです。ですから数値的評価はその場ではできません。子ども達の変わりようについて、態度、意欲、行動面では、確かな変化があるとの評価はいただいています。これからの課題を申し上げると、社会力を測る尺度、門脇先生は30問くらい用意してあり、それをあてて、社会力の高い子・低い子というのがあるのですが、それを村で評価をして、小学校1年生の時にどうだったかと、時系列的にデータを取って、卒業した時にどうかと、もう少し個人別データを取って追跡していき、中学までとなりますが、高校は測りづらいと思いますが、そんなことをもう少しきめ細かく対応していけば、社会力の高い子が、どういうことで高くなって、どういうふうに育つかということのをこれからの課題として考えていきたいと思っています。

**【松村純子委員】**

村全体の社会力の育成ということだと思います。それはすごく分かります。青木っ子合宿とか村内ホームステイとかサマーキャンプとか個別の事業でも取り上げているのでしょうか。

**【本田昌彦委員長】**

加えて言いますと、小学校にもお願いしたのですが、個人別カードに参加した子どもをチェックして、小学校を卒業するまでに、どの程度のことを体験しているかと、それと学力と合わせたデータを取って、時系列的に追って、中学卒業までにどんな体験を

して、どんなことをした子が、どんな育ちをしているかということ、把握していればと思っています。こうしたデータがあるから有効だと示していれば、小さい、発進力の弱い青木村ですけれど、発信するのも客観的な裏付けがあれば可能かと思っています。

**【松村純子委員】**

楽しみに待っています。

**【塚田芳樹委員】**

この委員会で「学びの循環」ということを考えてきましたが、実際にどんなことができるのかなあと感じていました。今日その回答を見せていただいた気がいたします。今日の取り組みの仕掛け人の小岩井先生が、この村も非社会化の現状があるんだ、何とかしなければいけないということで取り組んだというお話があって、村の子ども達をこんなふうにしていきたいというところでは、人間が大好きで、自立した大人にしたい、たくましい子どもにしたいんだ、という目標を持って取り組まれてきた。

今日半日見ただけで、すばらしいなあと思いましたが、それが何か数値に出てないのかなあと、今お答えがあったようになかなか数値に表せないというは、私もよく分かりますけれど、仕掛け人の小岩井先生、言葉で結構なのですが、自慢話をしていただきたい、自分が取り組まれてこんなに変わってきたということ、感じておられることがあったら、是非教えていただきたいと思います。

それからもう一つは、やっぱり教育なので、教育の取り組みは最終的には、大きな目的の一つは学力なんです。今学力のデータがちょっとないとおっしゃったのですが、今日授業を見させていただいて、あの分数が分からない大学生がいるのです。今日の青木村の子ども達はすごいスピードで問題を解いたりしていて、それぞれ子ども達は分かっていると思います。そういう意味では学力も伴っていると感じましたが、何かそのあたりの具体的なデータがあるかどうか。是非教えていただきたい。

**【小岩井彰生涯学習課長】**

最初にお話ししたように、この仕事から離れてちょうど4年目になります。変わったというようなことを声高に言える立場ではありません。しかし、今日センターで遊んでいる子ども達の嬉々とした様子などは随分変わったなあと感じました。高田所長が話されましたが、保護者のクレームが山のようにあって、2人で頭を抱えながら、発信していこうということを誓い合って戦っていた頃と比べれば、クレームが無くなり、保護者に認められ、子ども達がこれだけ大きな声で、飛び歩いているというのは、本当に大きな変化ですし、高田所長はじめ、皆さんの力だということを感じています。

高田所長から、中学生の高校進学に関して、中学三年の成績のいい学年の子ども達は小学校の時の児童センターの利用率が非常に高いというデータは示せるというお話は頂いています。おそらくトータルで見たらそういう、違ったものが育ってきている。学力を育てるには、リンゴの木の実一つを光らせるのではなくて、しっかりしたリンゴの

木にするために、根っこを育てることが大切です。子ども達で言ったら、意欲関心を育てていくのが非常に大きなポイントになっていくのではないかと感じています。ただ様子からだけしか分かりませんし、評価については先ほど委員長からお話がありました。私は人文学部の取り組みに期待して終わりました。また、塾の先生である高濱正伸先生が今細かなデータを取っておりますので、そういうところからいわゆる学力、知識理解に繋がるものが見えてくるかもしれないと思っています。

#### 【小島佐和子委員】

目から鱗の部分があって、うらやましいなあというのが第一印象でした。小学校、中学校までは手厚く支援されていていいのですけれども、ここにいる子ども達は高校へ行って社会人になって、若者になっていくところがちょっと見えなくて、子どもとお年寄りの部分はとてもよく見えてましたが、この村の若い人たちの部分がよく見えないので、その辺ももしあったら教えていただきたいと思います。高校生の子も達はどうしているのかな。そうしたすばらしい教育を支援されて大きくなって、高校生になったらどうなっているのかなと思いました。

特に今は学力も上がってきてとあったんですが、日本の学力が昔と違うことが求められている時代になってしまった。学校の勉強が机上でできるばかりでなく、もっと考える力を持たなければいけないと世界中言われています。そういうところを青木村さんはどんなふうに行って行くのかなあと半分楽しみもあるんですが、これからそういうことも考えていかなければいけないんじゃないかと思っていたものですから、そんなことで、もしお話しがあったらお願いします。

#### 【沓掛英明教育長】

数値化のことですが、来年度に計画しているのは、小学校ではC R Tという学力テストで統一しよう、中学校はN R Tというテストで統一しようということです。今まではばらつきがあったのです。なぜそうしようとしたかと言いますと1人を追っていくためです。その1人が1年生の時にどうで2年生の時にどうということをつかみ、先生達が指導に生かしていくようにしたいと思っています。それと社会力との関係をどうしていくかというのはこれからの課題となっています。

その1つのキーワードが、資料2ページ目の授業モデルなのです。今日も5年1組の授業でこの通りに展開してもらっていたのですけれども、何点かポイントがあるのですが、個人追究の後に共同追究を必ず入れる、学級全体の中で追究する、最後6番で一般化が必ずあります。小学校の先生達が本年度この研究をして分かったのは、この6番まで行かなきゃあだめだということです。ともすると1番、2番にすごい時間がかかって、それでも子ども達が一生懸命になれば良いと思いがちであった私たち自身の反省でもあります。しかし、これはモデルですから、大体の先生がこの基本で授業をしてもらおうということで、授業の質を高めていきたい、専門性を高めていきたいと思っています。実際教育委員会として、すべての授業を見ますと、子ども達は前向きで素直で、私は青木村の奇跡と言っているのですが、でも先生によって授業に差があるというのは、否めない

事実のような気がします。その中でこれを提案していくことが大事かと一つ踏み出していきたいと思っています。

**【土井進会長】**

村の若者の姿が見えない、高校生はどうしているのですかという質問についてはどうですか。

**【本田昌彦委員長】**

村の公教育をどうしたらよいかということでやってきておまして、高校生については、学校にはこの村から通っています。村にいる子ども達の変化を見たいとは思っていますが、学校も違いますし、接点がなかなか見いだせなくて、そういう機会がなくなっています。成人式の時にですね、青木村に来ますからその時に確認する、今どこに行つて、どうだこうだということはありません。その点は残念ながら私どもの教育委員会でも義務教育止まりで、高校以上での追跡確認、アドバイスしたりなどはできていません。しかし、村のイベントなどには集まってきますので、つながりはあると思っています。引きこもりとかドロップアウトした子がいるとは聞いていますが数的には把握しておりません、残念ながらわたしどもの力が及んでおりません。

**【臼田直子委員】**

今日は午後に、児童センター、授業参観、寺子屋を見させていただきました。児童センターでのスライドショーで子ども達の生き生きした顔を拝見させていただいて、とても元気そうな子達なので、授業を拝見させて頂いた時に、もしかしたらザワザワしているかなあと思ったのですが、ここの生徒さんは授業には大変集中して取り組んでいました。目の輝きが違っていた気がいたしました。先生は特に大声で授業をされている訳ではないのですが、生徒さんは自主的にその先生の声に耳を傾けられる姿勢が見受けられて、本当にすばらしいと思いました。私たちは専修学校各種学校連合会です。各種学校というのは本当に小さなお子さん、保育園、幼稚園の子からご年配の方々まで来られます。そろばん教室、編み物教室、パソコン教室等様々な分野についての教育を行う団体です。実は私のところでも、そろばん教室がありまして、普段、私の知っている子ども達は結構元気がよくザワザワしてしまうところがあります。ですから青木村さんでの子ども達の姿を拝見しますと日頃からの先生方のご指導とか児童センターさんでの体力の発散などで十分気持ちが満ちている状態なのであの様に授業がうまくいっているのかなあと感じ取らせていただきました。

また、寺子屋では、1年生から3年生だったと思いますが、小さな子が30人程いるのに私語をしていないというところに大変驚きました。確かにボランティアの先生がいらっしゃるっていましたが、それにしても自分のやるべきことを自らやる子ども達というのは天使を見ているような感じでした。

青木村さんでは、本当に村を挙げて全員で同じ方向に向かってやっていくというところの指導は、根付いてきている証なのではないかなと思いますし、私どもの団体の方で

も教育に携わっていますので、是非今回拝見させていただいたことを、私たちの中でできることをこれから頑張らせていただきたいと思います。

### 【土井進会長】

貴重なご意見、ご質問を出して頂きましてありがとうございました。評価に関わって私の方からいくつかの具体例を述べさせていただきたいと思います。私どもの学生が青木村にお世話になって一番の成果は、青木村に来ると全員教員採用試験に合格するということです。現在、全国の都道府県に行っておりまして、その中から3人の例を紹介いたします。

7年前に小岩井先生に案内してもらって、村の中をずっと見せていただきました。私はある学生を何とか青木でやる気になってもらいたいと思って、小岩井先生に会わせて案内してもらいました。今日はどうだったと聞くと、「青木村でなんかできそうな気がしました」「よし、じゃあ頑張ろう」と…。青木村は4千8百人の人口と聞きましたが、彼の出身も福井県の越前町でここも人口が4千何百人位で、ここと同じくらいの人口のところ非常に親しみを感じている。そして、1年間ここで活動して、彼の家族はふるさとに戻ってくることを期待しましたが、青木村のようなすばらしい村がある長野県の教師になりたいと県内の中学に今勤めています。

2番目の例ですけれど、6年前、将来心理のカウンセラーになりたいと青木中学校に入って、青木中学にも不登校気味、あるいはいじめの子がいるかもしれないと、青木中学校にずっとかかわった学生がいました。そして打ちのめされたことは、青木中学の先生方と子どものことをめぐって色々意見交換する時に、自分の考えの浅さに打ちのめされた。それから小岩井教育長さんからは本当に大変なお叱りを受けて、もう青木なんかに行くもんか、もう絶対青木なんかに行かない、と思って帰るのですが、またなんかかんだかで声がかかって、2年間通い続けたその彼女が今、沖縄の知念高等学校の生物の教師として頑張っています。

3人目ですけれど、去年卒業して今年新卒で県内の小学校に勤めている学生です。「今学校へ勤めてみて、なんで子ども達の目が輝いていないのか、こんな子ども達はかわいそうだ。もっと子どもを遊ばせたい。もっと自然に触れさせてあげたい。今こんな学校教育でいいんでしょうか」と言っていました。この学生が青木村で何を教わったかという「私は青木村のおかげさま、具体で示せ、おとり持ち、お酌の仕方、自分で波を起こせ、お膳立てをしてもらって、環境を整えてもらってそれで何かやろう、そんなんじゃあ駄目だ。自分で波を起こせ」ということを委員長さんや小岩井教育長さんから徹底して教えこまれた。

こういうことは大学の4年間では、絶対に教われないことです。お酌の仕方を大学の教授で教えられる教授がいるかということです。これこそが社会力です。様々な場で人間関係を築けないようなものに社会をしょっていくことなどできないということを学生達はここで鍛えてもらった。村の子ども達にも徹底して鍛えてもらった。だから100%教員採用試験は合格になるのです。今年もたまたま小岩井先生が面接官をされていて、青木村でお世話になった受験生がいて、あなたは面接してはいけないと外されたと聞いてお

りますけれども、私は社会力というものは、数値の上で表せるものは、それは表す努力をしなくちゃいけない。しかし、最終的には人間力であって、人間力は数値では出せないのです。人格の力というのは、あなたの人格は何点ですかなどというのは、子どもであれ、大人であれ、数値化したりできるものではない。その人間の根本、社会力なり人間力というものを数値化でできるものはするけれども、おそらくそのように走っていきってしまうと今の日本の点取り主義だけの教育になってしまう。虻蜂取らずで根本を忘れる。リンゴの根っこや幹を太らせるのではなく、実だけを取ろうとしてしまう。成果だけを焦ってしまう。データをねつ造して数値だけを立派にして対外的に宣伝する。こういう恐ろしいことになってしまう。私は学生達の世界力はどう伸びたかということは絶対数値化しません。1人1人原稿を書かせます。その質でもってこの学生はどれだけ関わる力を身につけたか、こういうところに人と人の関わりがあるじゃないかということを出して考察しようとしています。先ほど人文学部の村山研一先生のお名前が出ましたけれども、地域ブランド研究という信州の地域ブランドを活性化しようということでやってらっしゃいますが、その第7集に小岩井先生と連名で長野県青木村で「信大YOU遊ワールド」の学生が培った社会力というものを提出することにしております。本当に学術的にもしっかりしながら、しかし、一番大事なものは子ども達の元気な声、これを抜きにして数値に走ってはひっくり返ってしまうということを思っております。

#### 【本田昌彦委員長】

皆様には遠いところおいで頂いて貴重なご意見を頂きました。今日の会で青木村の教育方針についてはご理解いただいたと思います。平成17年、2005年からこうした教育に取り組んでいまして、自慢話はできないのですが、ここにいらっしゃる小岩井前教育長の非常に熱心な活動によって立ち上がって、今年で7年目ということになります。当初は社会力なる概念が分かりづらくて、社会力なんて言っているより、学力をもう少し重点的に取り組んだらいいんじゃないかとかいろいろ言われました。そうは言っても社会力なる生きる力の大本の育成についてはぶれないと取り組んできた訳です。先ほどからの取り組みの評価について、お話があり、今、土井先生よりなかなか難しいというお話も頂きました。私どもとしてもその成果をなんとかはっきりしたいということで考えております。個人別データから保育園でちょっとイレギュラーな子どもいる、それを小学校につないでそれについて小学校で対応すると、そういうことで子ども達のデータを活用して、こういう各事業に参加した経験とか日常の学び遊びなどをデータ化して細かい対応指導をしていくことの追跡調査をして成果をみたい。ただ、意識ですとか行動面、意欲そういうものに対しては変化があきらかに見られるという評価を頂いています。元気な挨拶、取り組む意欲、積極的な行動、そういった意味では前と比べた訳ではないですが明らかにいいと評価をいただいています。これも付け加えると東大の本田由紀先生が小学校時代の子育てについて、保護者と成人になった子ども達をペアでアンケートを取っています。小学校時代の子どもの育ちを「きっちり型」と「のびのび型」と分けたのですが、多くの自然体験を積ませた子ども、子どもの自主性を尊重した子どもときっちり習い事や塾に行かせた子どもと比べて、20歳を過ぎた時

に親と子どもを追跡調査した結果、小学校時代に限って言えば、のびのび型が成人になって必要な能力、コミュニケーション能力、対人関係能力とかが遙かに統計上優位に出ている。ですから子どもの時代はのびのび自然と親しんだりいくつもの体験をさせたりした方がいいという調査結果がまとめられたというものです。私たちの取り組みについては確信を持って間違っていないと思っています。先ほど自慢話を一つ位しろとおっしゃったので、この取り組みを初めての1期生が去年の3月、中学校を卒業しました。当地区の進学校に5人に1人の合格者を出しました。これは因果関係ははっきりしません。その1期生がそういう成果を残してくれたということは、何か間接的に我々がやっていることが伝わったのかと考えています。学力の問題はこの結果で申し上げることはありません。しかし学力との関係においては、学力の根っここの部分、生きる力、社会力、態度とか意欲とか関心の部分を育てるといふ、大きな根を育てて花を咲かせるということが重要ではないかという認識でいます。確かな理念と具体的な手立てを持って、日々地道な実践を積み重ねていけば子ども達が変わっていく、育っていくということを私どもは信じていきたいと思っています。青木村に生まれた子ども達がしっかり根を育て、10年先、20年先に大樹に育ってほしいという願いで取り組んでいます。今日ご参会の皆様には、今後ともご支援ご協力をいただければありがたく思います。ありがとうございました。

**【駒村明美課長】**

委員の皆様には、本日は終日にわたり視察をしていただき、会議では熱心なご討議をいただきました。また、青木村の皆様には大変お世話になりました。

改めまして、皆様に厚く御礼を申し上げて、挨拶とさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。

以上をもちまして、「長野県生涯学習審議会」を閉じさせていただきます。

7 閉 会